

第50回 日本フィル 夏休みコンサート2024



好評
発売中!

【料金】全席指定・消費税込

S席 子供 3,400円 / 大人 5,600円
A席 子供 2,700円 / 大人 4,600円
B席 子供 2,000円 / 大人 3,600円

※ 子供 = 4歳~高校生

※ 4歳未満は入場できません。

チケットはお一人一枚ご用意ください。

★演奏時間は休憩を含めて約1時間50分です。

～プログラム～

第1部

夏休みコンサート50周年記念

♪信長貴富:《音楽のとびら》

～管弦楽のためのファンファーレ～

♪アンダーソン: 舞踏会の美女

♪エルガー: 愛のあいさつ

♪ホルスト: 《惑星》より木星
(夏休みコンサート版)

第2部

—— バレエ (7/19~31) ——

♪チャイコフスキー: バレエ《くるみ割り人形》
(夏休みコンサート2024版)

—— わくわくピアノ (8/2~6) ——

♪バッハ: メヌエット

♪ショパン: 幻想即興曲

♪ドビュッシ: 《ゴリウオーグのケーキウォーク》
「子供の領分」より

♪ガーシュウィン: ラブソディ・イン・ブルー

第3部

♪さんぽ ♪ふるさと ♪勇気 100%

第2部 バレエ

指揮: 梅田俊明 / お話とうた: 江原陽子

バレエ: スターダンサーズ・バレエ団 / バレエ演出・振付: 鈴木稔

7月19日 金 14:00 相模女子大学グリーンホール

7月20日 土 13:00 & 17:00 東京芸術劇場

7月21日 日 13:00 & 16:30 サントリーホール

7月25日 木 14:00 松戸・森のホール 21

7月27日 土 13:00 & 16:30 ソニックシティ (大宮)

7月28日 日 13:00 & 16:30 横浜みなとみらいホール

7月30日 火 14:00 ウェスタ川越大ホール

7月31日 水 14:00 江戸川区総合文化センター

♪特設ページ♪



第2部 ピアノ

指揮: 永峰大輔 / お話とうた: 江原陽子 / ピアノ: 上原彩子

8月 2日 金 13:00 & 16:30 サントリーホール

8月 3日 土 13:00 & 16:30 横浜みなとみらいホール

8月 6日 火 13:00 & 17:00 東京芸術劇場

【お申し込み】日本フィル・サービスセンター

☎ 03-5378-5911 (平日 10時~17時)

eチケット♪ <https://eticket.japanphil.or.jp>



人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。

JAPAN
PHILHARMONIC
ORCHESTRA

—— 創立指揮者 渡邊 暁雄 ——

日本フィルハーモニー交響楽団
JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA

第397回

横浜定期演奏会

397th YOKOHAMA Subscription Concert

2024年 5月18日(土) 午後5時開演

横浜みなとみらいホール

5:00pm May 18th (Sat.), 2024, at Yokohama Minato Mirai Hall



主催: 公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

後援: 神奈川新聞社、+v!k

協力: 横浜みなとみらいホール

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援))

独立行政法人日本芸術文化振興会

公益財団法人アフィニス文化財団

文化庁
文部科学省





日本フィル横浜定期演奏会 50周年 〈横浜カルチュラル・ワンダーランド〉

朝日カルチャーセンター横浜教室

レクチャー
コンサート

『社会文化史から読み解く日本フィル横浜定期400回記念』

弦楽四重奏の世界 モーツァルトからチャイコフスキーまで

2024年7月15日(月・祝) 14:30~16:00

※有料
(詳細はチラシ・HP)

講師：小宮正安(横浜国立大学教授)

日本フィル弦楽四重奏 (Vn 佐藤駿一郎、竹歳夏鈴 Va 中川裕美子 Vc 江原望)

弦楽四重奏の演奏を聴きながら、音楽史の中に浮かび上がる日本フィルの横浜定期の歩みとこれからの、作品が生まれた社会文化の視点から読み解きます。

【お申込み・お問合せ】朝日カルチャーセンター横浜教室 TEL 045-453-1122

横浜アンサンブル・ワンダーランド Vol.2

～日本フィル・クラリネットセクションによる室内楽～

日本フィル「最高の男4人」が魅せるクラリネット・アンサンブル JPO Quatre Homme plus

昨年大好評だった日本フィルの室内楽シリーズ第2弾。今回は日本フィルの木管セクションを支えるクラリネット4名によるスペシャルユニット JPO Quatre Homme plus が横浜初公演！後半にはトークショーでメンバーの魅力も掘り下げます！

好評
発売中！

2024年6月27日(木) 18:30開演(18:00開場)

横浜みなとみらいホール 小ホール

JPO Quatre Homme plus [クラリネット四重奏]

伊藤寛隆(首席奏者) 楠木 慶(副首席奏者) 照沼夢輝 堂面宏起

第一部 クラリネット四重奏コンサート(約60分)

グランドマン：クラリネットのためのカプリス

ヘンリー：バードウォッチング ラヴェル(杉本哲也編曲)：クーブランの墓

チャイコフスキー(杉本哲也編曲)：幻想序曲《ロメオとジュリエット》

第二部 ライブトークショー(約30分)

ここでしか聞けないスペシャルトークをたっぷりお届け！

■料金(税込/全席指定) 一般：¥3,000 会員：¥2,500* U18シート：¥1,000

*日本フィル各種会員、みなとみらいウェブフレンズ

ショスタコーヴィチを極める —マエストロ井上道義との最後の共演

2024年12月をもって指揮活動からの引退を発表している井上道義。日本フィルとの共演はこの公演が最後となります。1976年の初共演以来、数々のステージを重ねてきた我々としても寂しい限りですが、マエストロ井上の「有終の美」をしっかりと共に作り上げてゆきたいと思います。そして彼が選んだ作曲家は自身の化身とも言えるショスタコーヴィチです。前半には難関ミュンヘン国際音楽コンクールの覇者佐藤晴真とのチェロ協奏曲第2番、後半には未だ多くの謎を含んでいる交響曲第10番をお贈りいたします。

Programs

ショスタコーヴィチ：

チェロ協奏曲第2番 ㊦短調 op.126 (約33分)

Dmitri SHOSTAKOVICH:

Concerto for Violoncello and Orchestra No.2 in G-minor, op.126

———— 休憩(15分) Intermission ————

ショスタコーヴィチ：

交響曲第10番 ㊦短調 op.93 (約57分)

Dmitri SHOSTAKOVICH: Symphony No.10 in E-minor, op.93

指揮：井上道義

Conductor: INOUE Michiyoshi

チェロ：佐藤晴真

Violoncello: SATO Haruma

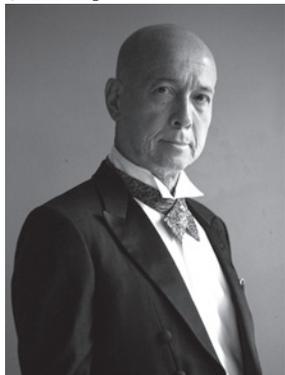
コンサートマスター：田野倉雅秋 [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]

Concertmaster: TANOKURA Masaaki, JPO Solo Concertmaster

ソロ・チェロ：門脇大樹 [日本フィル・ソロ・チェロ]

Solo Violoncello: KADOWAKI Hiroki, JPO Solo Violoncello

© Yuriko Takagi



指揮：井上道義

1946年東京生まれ。桐朋学園大学で齋藤秀雄氏に師事。1971年グイド・カンテルリ指揮者コンクール優勝。1977～1982年ニュージーランド国立交響楽団・首席客演指揮者、1983～1988年新日本フィルハーモニー交響楽団・音楽監督、1990～1998年京都市交響楽団・音楽監督 / 第9代常任指揮者、2007～2018年オーケストラ・アンサンブル金沢・音楽監督、2014～2017年大阪フィルハーモニー交

響楽団・首席指揮者を歴任し、斬新な企画と豊かな音楽性で一時代を切り拓いた。

1999～2000年に新日本フィルと共にマーラー交響曲全曲演奏会を取り組み「日本におけるマーラー演奏の最高水準」と高く評価された。また2007年には日露5つのオーケストラとともに「日露友好ショスタコーヴィチ交響曲全曲演奏プロジェクト」を行い、音楽・企画の両面で大きな成功を収めている。このプロジェクト以降、日本におけるショスタコーヴィチの演奏会は一気に増加しており、井上はその最大の功労者とも言われている。2014年4月に病に倒れるが、同年10月に復帰を遂げる。

2015および2020年には全国共同制作オペラ《フィガロの結婚》(野田秀樹演出)、2017年大阪国際フェスティバル『バーンスタイン：ミサ』、2019年全国共同制作オペラ《ドン・ジョヴァンニ》(森山開次演出)、2023年『井上道義：A Way from Surrender ～降福からの道～』などをいずれも総監督として率い、既成概念にとらわれない唯一無二の舞台を作り上げてきた。

2016年「渡邊暁雄基金特別賞」、「東燃ゼネラル音楽賞」、2018年「大阪府文化賞」「大阪文化祭賞」「音楽クリティック・クラブ賞」、2019年NHK交響楽団より「有馬賞」、2023年「第54回サントリー音楽賞」を受賞。現在、オーケストラ・アンサンブル金沢桂冠指揮者。2024年12月30日に指揮活動を引退するため、本公演が日本フィルと最後の共演になる。



← YouTube チャンネル

【5分でわかる大人のためのオーケストラ入門】
今月のイチオシ

この演奏会では、目の不自由なお客様のために点字プログラムをご用意しております。
ご要望の方は主催受付までお申し出ください。

お客様へのお願い ●演奏中はお手持ちの時計のアラーム、または携帯電話などの電源はお切りください。手荷物、傘、チラシ類などの物音、話し声や体の動きなどで他のお客様のご迷惑にならないようご配慮をお願い申し上げます。尚、録音、録画、演奏中の写真撮影は固くお断りしております。

© Seichi Saito



チェロ：佐藤晴真

2019年、長い伝統と権威を誇るミュンヘン国際音楽コンクールチェロ部門において日本人として初めて優勝して、一躍国際的に注目を集めた。18年にはルトスワフスキ国際チェロ・コンクール第1位および特別賞を受賞。ほかにも、第83回日本音楽コンクールチェロ部門第1位および徳永賞・黒柳賞など受賞多数。

バイエルン放送響をはじめ国内外の主要オーケストラと共演しており、リサイタル、室内楽でも好評を博している。20年11月には、名門ドイツ・グラモフォンよりデビューアルバムとなる『The Senses ～ブラームス作品集～』をリリースし、第13回CDショップ大賞2021クラシック賞を受賞。21年11月には、セカンド・アルバム『SOUVENIR ～ドビュッシー&フランク作品集～』をリリース。23年4月、待望の3rdアルバム『歌の翼に～メンデルスゾーン作品集～』が同じくドイツ・グラモフォンよりリリースされ、発売当初より話題を集めている。

これまでに、林良一、山崎伸子、中木健二の各氏に師事。現在は、ベルリン芸術大学にてイエンス＝ペーター・マインツ氏に師事している。

15年東京都北区民文化奨励賞受賞。15年ヤマハ音楽振興財団奨学生。16年度東京芸術大学宗次特待奨学生。18年ロームミュージックファンデーション奨学生。20年、音楽芸術文化の発展に貢献し、将来一層の活躍が期待される若手チェリストに贈られる、第18回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第30回出光音楽賞を受賞。21年度文化庁長官表彰。22年、第32回日本製鉄音楽賞を受賞。江副記念リクルート財団第52回奨学生。

使用楽器は宗次コレクションより貸与されたE. ロッカ1903年。ベルリン在住。

布施 砂丘彦の
オーケストラ
ガイド

今日のコンサートの聴きどころは？

初登場！多彩な活動を展開する期待の若手
布施砂丘彦さんの解説をお楽しみください。16時20分
より
大ホール内
にて♪

布施 砂丘彦 (ふせ さくひこ)

東京芸術大学卒業。コントラバスおよびヴィオラ奏者、批評家、音楽プロデューサー。2020年9月に時評「音楽の態度」で第7回柴田南雄音楽評論賞奨励賞を受賞して批評家デビュー。朝日新聞の連載「for your Collection クラシック音楽」をはじめとして、雑誌やウェブメディアなどさまざまな媒体に寄稿。2023年から「箕面おんがく批評塾」(箕面市メイプル文化財団主催)塾長。

ドミトリー・ショスタコーヴィチ (1906-75) Dmitri SHOSTAKOVICH

ロシアの作曲家ドミトリー・ショスタコーヴィチ (1906-75) は、若き日にプロの音楽家としての道を目指して以降、ソビエト政権の下でその生涯を送った。またそのことが、彼の生涯に少なからぬ影響を及ぼすこととなった。

そうした文脈で考えると、とある政治家の存在を抜きにして、本日演奏される2曲を語ることはできない。1953年から64年まで同国の最高指導者の地位にあったニキータ・フルシチョフ (1906-75) だ。彼の前任者であったヨシフ・スターリン (1878-1953) の政治姿勢を批判し、外交や内政に「雪解け」の時代をもたらす一方で、最終的には権力の一極集中化に突き進み失脚した複雑な政治家…。

そんなフルシチョフの失脚後、1966年に作曲され、彼の60歳を祝う演奏会で初演されたのが、『チェロ協奏曲第2番』だ。といっても、この作品には誕生日祝いを彷彿させる輝かしさはほとんど聞かれない。当時のショスタコーヴィチは、国家の誇る大作曲家としての名声を得る一方、重い心臓の病に悩まされ、さらにソ連そのものがフルシチョフの失脚により過去に逆戻りしたかのような閉塞感の中に置かれていた。

第1楽章はゆったりとしたテンポの中に(独奏者の腕前を披露することが目的であるはずの協奏曲において、こうしたテンポで曲そのものが始まること自体ぎょっとさせられる)独奏チェロが沈鬱な調べを奏で、オーケストラの重々しい響きがさらなる重苦しさを加える。第2楽章は少しだけテンポが速まるものの、そこで展開されるのはグロテスクな行進曲調の楽想だ。そしてそこから切れ目なく始まる第3楽章は、開始部分こそ華やかな、しかしこれまたグロテスクなまでに歪んだファンファーレで始まり、最後は様々な打楽器を交えつつ消え入るような響きの中にすべてが消えてゆく…(なお、多くの場合派手な響きを発するはずの打楽器を、曲の最後に切れ切れの響きの断片のように用いてゆく手法は、ショスタコーヴィチ晩年の作品の特徴である)。

このように、フルシチョフ時代の終焉を象徴するのが『チェロ協奏曲第2番』だとすれば、『交響曲第10番』は、フルシチョフ時代の幕開けである1953年に初演された。実のところフルシチョフに先立つスターリンが敷いた恐怖政治の下、ショスタコーヴィチは幾度となく政権から睨まれ、またその度に政権に迎合するかのような作品を発表することで生き延びていた。

特に1945年に初演された『交響曲第9番』は、その軽妙な内容が、第二次世界大戦におけるソ連の勝利を記念するような曲を期待していたスターリンの激怒を買う。まただからこそそれ以降、ショスタコーヴィチはしばらくの間、交響曲そのものを公にすることができなくなっていた。というわけで『交響曲第10番』についても、スターリン時代の末期に密かに書き進められた結果、彼の死後によりやく発表できた、という見方もある。

いずれにしても、そうした「二枚舌」を使いながらショスタコーヴィチが生きざるを得なかったことを考えながら、この交響曲に耳を傾けてみよう。するとそこには、それぞれの聴き手によって様々な解釈が可能となる、音楽を通じた彼のメッセージが聞こえてくるはずだ(また文学や絵画とは異なり、音楽の特徴である「抽象性」を最大限に用いることで、ショスタコーヴィチはソ連体制下において、自らの考えや感情を表現してゆけた)。

第1楽章の冒頭、低弦が奏でる主題の中に暗示される2つの音型は、ドイツ語表記では「D-Es(S)」。これは、「D-S-C-H」音型と言われる4つの音型の最初の2つで、ショスタコーヴィチの名前 Dmitri Shostakovich を象徴するものだ。彼自身が好んで、この交響曲を含む自作のそこかしこに採り入れた一種の暗号である(なお第1楽章では「D-S」と断片的だったこの音型だが、第3・4楽章では「D-S-C-H」という完全な形となって、それぞれの楽章を形作ってゆく)。他にも、ショスタコーヴィチが1952年に作った『プーシキンの詩による4つのモノローグ』の第2曲『あなたにとって私の名前なんて…』の音型も、この楽章に用いられる。いずれにしても、きわめて謎めいた要素が満ち溢れる幕開けである。

第1楽章から一転して、第2楽章では大騒ぎの音楽が繰り広げられる。スターリンを戯画化したという解釈もあるが、いずれにしても異常なほどの乱痴気騒ぎの中に、グロテスクな行進曲も現れるなど、軍事独裁のパロディであることは間違いない。

第2楽章が一气呵成に終わった後、第3楽章は一転して厳粛な音楽となる。その中で、意図的に歪められた「D-S-C-H」音型が登場したり、ショスタコーヴィチ自身が尊敬していたグスタフ・マーラー (1860-1911) の晩年の交響曲『大地の歌』を踏まえた死を思わせる楽想が奏でられたり。この楽章も第1楽章に負けず劣らず謎めいており、ショスタコーヴィチの秘密の恋人の名前を象徴する音型も忍び込まされているという(彼は生涯、きわめて恋多き男だった)。

全曲の結論部分ともいえる第4楽章の最後は、一応のところこれまでの屈託をふりはらうかのようなテンポと生命力に満ち溢れ、最後は完全な「D-S-C-H」の音型で締めくくられる。ただし常軌を逸したかのようなハイテンションの響きを聴くにつれ、それがショスタコーヴィチの自己解放を表すのか、他の意図があるのかは分からない。またそうした「謎」を全身で体験するのが、彼の交響曲をライブで聴く醍醐味なのである。

楽器編成

【チェロ協奏曲第2番 短調 op.126】独奏チェロ、ピッコロ1、フルート1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット3(コントラ・ファゴット持替1)、ホルン2、ハーブ2、ティンパニ1、大太鼓、小太鼓、シロフォン、タンブリン、ウッドブロック、トムトム、ムチ、弦楽5部。

【交響曲第10番 短調 op.93】ピッコロ1、フルート2(ピッコロ持替1)、オーボエ3(イングリッシュ・ホルン持替1)、クラリネット3(Es管クラリネット持替1)、ファゴット3(コントラ・ファゴット持替1)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、チューバ1、ティンパニ1、大太鼓、小太鼓、シンバル、トライアングル、タンブリン、銅鑼、シロフォン、弦楽5部。



Column

歴史でひもとく! ~クラシックこぼれ話 by 小宮正安



ショスタコーヴィチの素顔

「彼(ショスタコーヴィチ)が体制の御用作曲家でないことは、一目ですぐに分かったよ」。こう語ってくれたのは、ウィーン国立歌劇場管弦楽団/ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターを長らく務めたウェルナー・ヒンク氏。その半生をまとめた口述伝記を書くためのインタビューで、こんな話が出た。じっさい1960年代・70年代のオーストリア(いやオーストリアに限らないが)では、ショスタコーヴィチがソ連体制を賛美する作曲家と往々に見なされていたのである。

だが若き日のヒンク氏は、そうではなかった。オーストリアは中立国であるため、彼は歌劇場やオーケストラの仕事でソ連に行くこともあったのだが、その時の印象を次のように語っている。「あの国では、すべてが監視されていた。直接的な監視でなくても、常にだれかに見張られているという感覚から逃れることはできなかった。」またそうした中で、国家を代表する作曲家だったショスタコーヴィチが、一見体制に従うようなそぶりを見せざるをえなかったことは当然だった、という意見だった。

ヒンク氏はさらに、実際にショスタコーヴィチと短くではあるが、直接会話をしたことがあるとのこと。ただしその時の様子は、ショスタコーヴィチは非常に口数が少なく、何かを悟られまいと用心に用心を重ねている風だった。またそうした苦境を物語るかの如く、その表情は苦渋に満ち、身体全体から疲労が滲み出ている。

たしかにショスタコーヴィチの数あるポートレートを見ると、ハリー・ポッター似の聡明さとあどけなさを具えた青年時代の表情に、やがて間断なく皺が刻まれ、その眼差しも何かに怯えるような雰囲気を含んでいったことがよく分かる。またそうした間断ないストレスが、彼の健康をも蝕み、晩年の体調不良をもたらしたのだろう。

ちなみにヒンク氏が好きなショスタコーヴィチの作品は、数々の弦楽四重奏曲とのこと。彼が遺した交響曲と同じく15曲あるが、その第1番は最初の交響曲に遅れること10年以上、スターリンの文化統制が厳しさを増す中での出来事だった。

筆者がインタビューをおこなったヒンク氏の口述自伝
『ウィーン・フィル コンサートマスターの楽屋から』



Next YOKOHAMA

第398回 横浜定期演奏会

2024年6月15日(土) 17:00
横浜みなとみらいホール

指揮: 小林研一郎 [桂冠名誉指揮者]

ピアノ: エリソ・ヴィルサラゼ

ベートーヴェン: ピアノ協奏曲第5番《皇帝》

ベートーヴェン: 交響曲第6番《田園》

※当初の予定から変更になりました。

S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C ¥5,000 P ¥4,000 Ys (25歳以下) ¥1,500

※ Ys席: 25歳以下の方が対象のお席です。S席以外から選べます。



小林研一郎



エリソ・ヴィルサラゼ

16:20 ~
小宮正安氏による
オーケストラガイド♪

第761回 東京定期演奏会

2024年6月7日(金) 19:00 / 2024年6月8日(土) 14:00
サントリーホール

指揮: 秋山和慶 ホルン: 信末碩才 [首席奏者]

ベルク: 管弦楽のための3つの小品 op.6
(リーア編曲による室内アンサンブル版/日本初演)

R. シュトラウス: ホルン協奏曲第2番 変ホ長調 AV132

ドヴォルジャーク: 交響曲第7番 二短調 op.70 B.141

※当初の予定から
変更になりました。

S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C ¥5,000 P ¥4,000 Ys (25歳以下) ¥1,500

※ Ys席: 25歳以下の方が対象のお席です。S席以外から選べます

© 井村重人



信末碩才よりメッセージ

今回初めてオーケストラで独奏曲のソリストを務めますが、名曲ど真ん中であり私自身もちろん大好きな R. シュトラウスのホルン協奏曲第2番を演奏する機会を頂けて本当に嬉しく思っています。

技巧に目が行きがちですが、是非2楽章の愛に溢れた音楽も浴びにサントリーホールへお越しください!

2023年度ミュージック・ペンクラブ音楽賞授賞式

2024年3月8日に、2023年度ミュージック・ペンクラブ音楽賞が発表され、日本フィルがオペラ・オーケストラ部門を受賞し、4月16日に授賞式が行われました。

【受賞理由】

2023年9月に就任した首席指揮者、シンガポール出身のカーチュン・ウォンは日本のオーケストラで日中韓以外の国籍を持つ最初のアジア人シェフ。1956年に「NHK交響楽団の対抗馬」として渡邊暁雄が創立した当時の進取の気概の復活ともいえ、マーラーをはじめとする西欧古典と伊福部昭、武満徹など日本やアジアの新旧作品を対比させ、21世紀の日本のオーケストラが目指すべき方向を明確に示す。1972年の旧日本フィル分裂劇から半世紀あまりが過ぎ、名実ともにメジャー楽団の力量を回復するに至った。(池田卓夫)



ご支援賜りました皆様に、心より御礼申し上げます。

テレビ番組レギュラー出演のお知らせ

日本フィルがBSに。指揮者が語るミニ番組！『Welcome クラシック』BS朝日 毎週水曜日 22:54～23:00 (第3週、第4週は再放送)。ぜひご覧ください！

本日の公演は終演時のカーテンコールでの写真撮影が可能です。

携帯電話・スマートフォン付属のカメラで着席のまま撮影をお願いいたします。フラッシュ、動画撮影はお控えください。詳しくは会場の掲示をご覧ください。

もうすぐ発売!

2024/2025 シーズン

◎東京/横浜 年間定期会員券
◎東京/横浜 秋季定期会員券

5月30日 発売

◆定期会員券ご寄付のお願い◆

お客様のご都合により、定期演奏会にご来場いただけなくなった時は、是非日本フィルにチケットをご寄付ください。有効に活用させていただきます。

【ご寄付の方法】

ご寄付いただける会員券の公演日・座席数・座席番号を日本フィル・サービスセンターにお電話かFAX、メールにてご連絡の上、会員券をご郵送ください。主催会場でも受け付けます。

- 公演1週間前のご寄付に関しては、会員券のご郵送は不要です。●会員券のご郵送料はお客様にてご負担いただきます様ご協力をお願いいたします。
- ご寄付いただいた定期会員のお客様には、ご寄付いただきました公演月のプログラム冊子を後日ご郵送いたします。また、翌月または翌々月のプログラムにご芳名を掲載させていただきますので、掲載をご希望されないお客様はご連絡をお願いいたします。

横浜定期演奏会の定期会員券をお譲りいただきました。心より御礼申し上げます。

4月の寄付者 匿名3名

敬称略・五十音順

日本フィル・サービスセンター

〒166-0011
東京都杉並区梅里1-6-1

TEL: 03-5378-5911 (平日10時～17時)

FAX: 03-5378-6161 (24時間)

e-mail: order-ticket@japanphil.or.jp

横浜定期会員の特典

横浜ベイホテル東急(横浜みなとみらいホール向かい)にて、メンバーズ優待を行っております。

飲食: 下記店舗で、飲食料金が10%OFFとなります。(4名様まで) ※除外日および対象外メニューあり

オールデイダイニング「カフェ トスカ」/ラウンジ「ソマーハウス」/日本料理「大志満」
中国料理「スーツァンレストラン陳」

※会計時に横浜定期会員券をご提示ください。※この割引は日本フィルのコンサート開催日以外にも有効です。
※指定以外の店舗、および宴会は対象外です。ご了承ください。※他の特典・割引との併用はいたしかねます。

公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団 (1956年6月創立)

- 創立指揮者/渡邊暁雄
- 桂冠名誉指揮者/小林研一郎
- 名誉指揮者/ルカーチ・エルヴィン
- 名誉指揮者/ジェームズ・ロッドラン
- 客員首席指揮者/ネーメ・ヤルヴィ
- 首席指揮者/カーチュン・ウォン
- 桂冠指揮者兼芸術顧問/アレクサンドル・ラザレフ
- フレンド・オブ・JPO (芸術顧問) /広上淳一

公式X (元 Twitter)
@Japanphil



<p>ソロ・コンサートマスター 扇谷泰朋 木野雅之 田野倉雅秋</p> <p>アシスタント・コンサートマスター 千葉清加</p> <p>第1ヴァイオリン 伊藤太郎 太田麻衣 九鬼明子 齋藤政和 榊 渚 竹歳夏鈴 谷崎大起 田村昭博 中谷郁子 西村優子 平井幸子 本田純一</p> <p>第2ヴァイオリン 遠藤直子 大貫聖子 岡田紗弓 加藤祐一 神尾あずさ 川口 貴 佐藤駿一郎 末廣紗弓 豊田早織 町田 匡 松川葉月 山田千秋 ヴィオラ</p> <p>☆安達真理 江藤史織 小俣由佳 小中澤基道 児仁井かおり 高橋智史 中川裕美子 中溝とも子 松澤雅奈</p>	<p>ソロ・チェロ 門脇大樹 菊地知也</p> <p>チェロ 石崎美雨 伊堂寺 聡 江原 望 大澤哲弥 久保公人 山田智樹</p> <p>コントラバス ◎高山智仁 鈴木優介 成澤美紀 宮坂典幸 森田麻友美 山口雅之 フルート ◎真鍋恵子 齋藤光晴 難波 薫 オーボエ ◎杉原由希子 ◎松岡裕雅 佐竹真登</p> <p>クラリネット ◎伊藤寛隆 ◎楠木 慶 照沼夢輝 堂面宏起 ファゴット ◎田吉佑久子 ◎鈴木一志 大内秀介 中川日出鷹</p> <p>ホルン ◎丸山 勉 ◎信末碩才 伊藤 舜 宇田紀夫 原川翔太郎 村中美菜</p>	<p>ソロ・トランペット オッタビアーノ・クリストフオリ</p> <p>トランペット ◎大西敏幸 大飼伸紀 中里州宏 中務朋子 星野 究</p> <p>トロンボーン ◎伊藤雄太 笠間勇登</p> <p>バス・トロンボーン 中根幹太</p> <p>チューバ 柳生和夫</p> <p>ティンパニ ◎エリック・バケラ 池田健太</p> <p>パーカッション 大河原 渉</p> <p>ハープ 松井久子</p> <p>楽団長 星野 究</p> <p>チーフステージマネージャー 阿部紋子</p> <p>ステージスタッフ 長橋健太 森田大翔</p> <p>チーフインスペクター 佐藤駿一郎</p> <p>インスペクター 宇田紀夫 鈴木優介 谷崎大起</p> <p>ライブラリアン 鬼頭さやか 杉本哲也</p> <p>◎首席演奏者 ◎副首席演奏者 ☆客演首席演奏者 □試用期間</p>	<p>理事長 (代表理事) 平井俊邦</p> <p>副理事長 (代表理事) 五味康昌</p> <p>専務理事 (代表理事) 福井英次</p> <p>常務理事 (代表理事) 後藤朋俊</p> <p>理事 石井啓一郎 佐々木経世 田村浩章 戸所邦弘 中根幹太 福本ともみ</p> <p>監事 上條貞夫 福澤宏哉</p> <p>評議員会会長 加藤丈夫</p> <p>評議員 青井 浩 安孫子 正 荒崎康一郎 石塚邦雄 石村 等 稲垣 尚 内川清雄 大塚宜夫 海堀周造 樋浦卓一 河北博文 喜多崇祭 木村憲司 久保田 隆 小林研一郎 島田精一 津田義久 西澤 豊 野間省伸 葉田順治 村上典史子 山口多賀幸</p> <p>名誉顧問 熊谷直彦 島田晴雄 田邊 稔 アドバイザリー・ボード 小野敏夫 小網忠明 後藤 茂 武田隆男 田邊 稔 溝口文雄</p> <p>コミュニケーション・ディレクター マイケル・スペンサー</p> <p>マネジメント・スタッフ 淺見浩司 磯部一史 江原陽子 及川ひろか 小川紗智子 荻島里帆 賀澤美和 柏熊由紀子 小須田明 佐々木文雄 澤田智夫 篠崎めぐみ 杉山綾子 杉山まどか 高橋勇人 田中正彦 樋谷祐子 中村沙緒里 西田大輔 長谷川珠子 藤田千明 別府一樹 益満行裕 宗澤昌子 山岸淳子 吉岡浩子 シニア・パートナー 新井康允 伊波 睦 永島義郎 南部洋一</p>	<p>団友 青柳哲夫 青山 均 赤堀泰江 新井豊治 石井啓一郎 伊藤恒男 伊波 睦 後藤 隆 遠藤剛史 大石 修 大川内 弘 寛 美知子 金本順子 浦谷隆行 川口和宏 菊田秋一 岸良開城 吉川利幸 木村正伸 小林俊夫 小山 清 齋藤千種 佐々木裕司 佐藤玲子 菅原 光 高木裕子 高木雄司 高木 洋 高倉理実 田沢 烈 立川和男 堂阪俊子 富樫尚代 豊田尚生 中川二朗 永田健一 中務幸彦 奈切敏郎 橋本 洋 畑井紀代子 平賀法子 福島喜裕 松本克巳 松本伸二 三本克郎 宮武良平 三好明子 森 茂 山下進三 山科淑子 渡辺哲雄</p>
--	---	--	--	--

(2024年5月1日現在)